

桐鈴凜々

第152号

2023年11月10日発行

発行責任者

社会福祉法人 桐鈴会

理事長 黒岩秩子

南魚沼市浦佐5142-1

電話 025-780-4118

FAX 025-777-3731

e-mail info@toureikai.com

http://www.toureikai.com/

桐鈴会の理念

・終のすみかを目指す

・「迷惑をかけ合える関係」を目指す

・高齢者、しょうがいしゃ、子どもたちが

安心して住める地域を創ろう！



10周年記念事業
「GHおひさま
・工房とんとん」

ディズニールランド日帰り旅行 & 10周年感謝祭！

「10周年記念ディズニール旅行」 グループホームおひさま

管理者 小林裕子



平成23年グループホームひまわり開設。平成25年ケアホームおひさま開設。平成28年の制度改正に伴い、2つを併せて「グループホームおひさま」に名称を変更しました。その後、令和元年には駅前ハウスが追加。はてさて、10周年記念はどこから数えていつになるのか?? まあいつか…今年を10周年としましょう！

おひさまハウスでは4年前から自治会で話し合い、ディズニール旅行に行きたい！と毎月工賃から2千円づつディズニール旅行積立をしていました。すぐに実行されるはずが…長いコロナ禍…積み立ては



十二分に貯まりました。今年の2月末の頃、コロナが5類になると分かり、「もう、今年絶対に行けるぞ!!」事業計画にも書きました。

10周年記念ディズニール旅行と銘打って、おひさまハウスだけではなく、ひまわりハウス、駅前ハウスの利用者、職員にも希望者を募り、大旅行となりました。職員は自分のお休みを使って、しかも実費で10人の方が参加してくれて本当に嬉しかったです。

9月12日お天気にも恵まれて、サロンバスを借りて6時過ぎに出発です!! 到着してすぐに、キャラ

クターたちに会えて大興奮です。昼食はデイズニーランドホテルの豪華ランチ。さすがデイズニー！ナプキンもミッキーやドナルドの形にたたんであり、料理もソースがミッキーの形になっていたり。一皿ずつ運ばれてきて外側のナイフとフォークでお上品にお食事。こんな経験めったにないです。

美女と野獣の新しいアトラクションも楽しめ、パレードも予約席で楽しんできました。

最後は、職員と利用者一人ずつバディを組んでお土産屋さん回り。Tシャツを買いたい!!かわいぬいぐるみを買いたい!!ポップコーンケースをどうぞ!!とお目当てのお店で買い物。楽しく1日を過ごしてきました10周年記念だからとちよびつとお金もかかりましたが楽しい旅となりました。

次は15周年デイズニーシー旅行です!!



「応援ありがとう！」

10周年祭開催!

工房とんとん

パン班 関 公恵

10月21日(土)皆さんのご協力を得て、無事に10周年感謝祭を行う事ができました。

お客さまを始め、日頃からお世話になっていきます販売先の皆さま、ボランティアの方々、納品してくださる業者様、関係者の方々に改めてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

当日は、工房とんとん利用者や職員からのリクエストやアイデアを含んで形となったパンやお菓子の数々、約150個をご用意、並べる事ができました。

それぞれの商品を眺めていると、提案してくれたみんなの顔が浮かび、温かな気持ちになりました。これからも、その温かな気持ちを商品と共に、皆様へお届けしていけるように、ご協力のほど、よろしくお願い致します。



桐鈴会からのお知らせ



「第四北越銀行賞」
駅前ハウスパンボラ様

第四北越銀行さまより長年のボランティア活動に対し、賞を頂きました。授賞式は長岡グランドホテルで行われます。おめでとうございます。

○受賞のお知らせ

平本恵子・中村和子の2名体制となります。

※強度行動障害支援者養成研修修了者も配置します。

○相談支援事業所からのお知らせ

研修期間が終了し、12月より相談支援専門員が



開催行事のご報告



夏祭り実行委員長より

グループホーム 桐の花
管理者 小川明子

2020年から新型コロナウイルスの感染対策として開催を見送っていた「桐鈴会夏祭り」を9月9日に開催しました。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、世の中のイベントは感染対策を行いながら、以前のような賑わいあるイベントに戻りつつあります。そのような中

で、桐鈴会はどのように夏祭りを開催するの!?

桐鈴会が高齢者、障がい者を対象としており、おまけに入居施設がほとんど。ウイルスが入り込んだ場合は運営に大きな影響が出ます。なので、地域の方々との交流を図るための大事なイベントではありますが、今年はひっそりと入居者利用者・職員のみで開催することと決めました。

外部の方を呼ばないなら日中の方が良いだろう！それなら暑さが収まる9月にしよう！と決めたのですが、今年は8月の終わりになってからも猛暑がおさまらず、コロナの心配もさることながら、熱中症の対策も必要となりました。どうする？どうする？結果、飲



食は各事業所内でしていたくこととなりました。鈴懸のピロティに屋台を出し、取りに来て、各事業所に戻って食べる。それでも、久しぶりのお祭りは楽しかったようでした。
法人全体で集まることもしばらくなかった為、職員同士も良い交流ができたようです。
来年は地域の皆さまと一緒に開催できるよう願っています。

入居者紹介

ケアハウス鈴懸

305号室

行方正則様



令和4年12月に体調を崩し、病院に3日間入院しました。

退院後、令和5年1月からケアハウス鈴懸にお世話になっております。

1月に入居出来てよかったです。私は一村尾の生まれです。

38年間、長岡の会社に勤めました。会社を辞めてから家の周りの畑で野菜を作っています。入居後も時々行っています。

今年は9種類の野菜を作りましたが、猛暑のため良い野菜は取れませんでした。今年の出来は良くなかったですが、来年は頑張りたい野菜を作りたいと思います。

健康に注意をして暮らして行きたいと思います。これからもよろしくお願いします。

「楽しかった」泊旅行 安田温泉やすらぎの湯篇」

ケアハウス鈴懸

入居者 山岸トヨ

連日38度超の猛暑が続いていた9月4日～5日に1泊2日の旅に出た。

行く先は「安田温泉」。参加人数は総勢11名。

此の旅行は、入居者の自主的イベントであり、岡村昭夫さん主導で計画・実行されました。

「鈴懸」も創立当初は泊まりの旅も有ったらしいですが、此処十数年は、片道100キロ以上の遠乗り、宿泊旅行も無く、又、コロナ禍による外出制限も長く続いていたので、入居者も大喜びで大勢の参加を得ることが出来たと思います。

朝9時送迎バスに乗り込む。職員に見送られて出発進行。お天気心配はなさそうだ。

旅行発起人の岡村さんから出発のご挨拶「何はともあれ此の2日間が楽しければ此の計画は成功」とのメッセージ有り。

高速に乗り一路、安田町に向かう。マイクロバスだから乗り心地

はイマイチ。ドライバーさんも余り若くないからこちらイマイチでした。でも、こんな遠くまでの送迎は有り難い。文句など言えば罰当たりだ。

ところで乗客の方はどうだろう、此方は全員高齢者、超高齢者も数人います。でも、今日は少しオシャレしているから皆さんとても素敵（男女共にです）。

途中高速を降りてトイレ休憩を取り五泉経由で安田に向かいました。安田アイランドが見える間もなく「やすらぎの湯」に到着、昼食後は観劇を楽しみました。

広い会場の割に、観客が少なく拍手抜けした気分でしたが、役者さんの汗が舞台下まで飛んでくるような熱演に拍手喝采でした。第二の「梅沢富美男」に成るような綺麗な役者さんもいましたよ。

一風呂浴びて次は夜の部。

美酒、美食、カラオケ三昧、宴会二次会とても超高齢者とは思えないパワフルな行動、何処にこんなパワーが潜んでいるのでしょうか。

おはようございます。昨夜あんなに遅くまで遊んだのに、今朝はすっきり、朝食もしっかり頂き、お土産も買い込み、帰路に着きま

す。宿の皆さんに送られて、お世話になりました。「楽しかった」また来まあーす。

帰路は日本海側を走り寺泊の角上魚類で昼食の予定。往路と違い復路は賑やか。「お猿のかごや」を皮切りに次々と歌が出て昨夜の宴会の続きのよう。まるでバスの中は歌声喫茶状態でした。お昼は美味しい海の幸を「満腹、満腹」。柏崎経由で午後3時頃、無事に帰宅する。

ドライバーさん有り難う御座いました。参加者の皆さんご協力有り難う御座いました。

「楽しかったー」

「また行きましょー」



大会のご報告

施設入居者・利用者のご活躍をご報告します。

○特別全国障害者スポーツ大会

燃ゆる感動 かがしま大会

工房とんとん利用者の大桃晴彦さんが、昨年に続き卓球精神の部金メダルを獲得しました！おめでとございます！



○スペシャルオリンピックス in 長野

ひまわり入居者の戸田聡さんと富田直樹さんがフロアーホッケーに出場決定！活躍を期待しています！



写真提供・FMゆきぐに

視察報告

今年9月に、次女 海映(みはえ)の弁護士仲間とその子どもたち(理)がスウェーデン・ノルウェーのインクルーシブ教育の視察に総勢12名で出かけました。

大学3年生の孫から感想をもらいましたので、ご紹介します。(理事長 黒岩秩子)



スウェーデン・ノルウェー

インクルーシブ教育視察 大学3年生 渡邊志重

私は、インクルーシブ教育の視察に先立ち、社会制度が全く異なる北欧における教育制度をどのような形で日本に適用できるのか、という問いを作った。

実際に、現地でノルウェーやスウェーデンの教育制度を視察すると、それぞれの国における教育の歴史や目的に基づいた素晴らしい教育環境が整備されていた。

具体的には、子どもの持つ障がいや疾患に合わせた学習や、卒業後の職業を見据えた実践的な授業が存在した。しかし、その背景には、私の想像を超える日本の社会制度との根本的な違いがあった。

例えば、所得税による再配分により、実質的な生活水準の格差がほとんどない。そのため、日本において待遇が良いとされる職業を志すインセンティブが弱く、学生の将来像は、「自分のやりたいことのできる職業に就くこと」であり、そ

のために十分な学歴を得ることが学校において求められることとなる。この点に、日本の教育環境との大きな違いがある。日本においては、ほとんどの学生が自分の将来像を描くことなく「偏差値が高い学校に行くこと」という一律の目的を持つ。すべての学生が同じ目の差しで比較され、順位がつけられる競争社会が成り立っている。このような社会において、マイノリティに配慮したインクルーシブ教育の提供は、マジョリテイにとって非効率なため、受け入れられない。

上述のように、社会構造の違いにより、教育現場における子どもたちの目的が異なるため、日本においてインクルーシブ教育を実施することが非常に困難であること痛感した。

しかし、北欧の教育現場を肌で感じ、そこで働く人々のやりがいや目的意識を生声で聴いたことで、インクルーシブ教育の意義を再確認した。

日本においてすべての子どもの個性を認め、彼らの自己実現と社会参加が促進される教育環境の整備をさらに模索して行きたい。

美麻小中学校探訪

理事長 黒岩秩子

2023年8月29日～30日 於

長野県大町市、美麻地区

8月29日、3男乙水の運転で、長野県大町市美麻小中学校を見学に行ってきました。美麻小中学校は、夫、卓夫の卒業した学校であり、特認校として、大町市全体からも多くの子どもが通っている、注目すべき学校なのです。

何しろ、全校児童生徒、99名のうち、地元の生徒は、15人ぐらいで、あとは、一番多い移住者の子ども、山村留学の子ども、それから、大町市内から通っている子どもが30人。2014年から始まったコミュニティ・スクール(CS)ということで、地域とのつながりが強く、児童生徒たちと地域のみなさんが、授業の中で出会って、お互いに刺激し合っています。

先生が「教える」という関係ではなく、児童生徒たちの「知りたい」という意欲が先生を動かす、授業そのものを動かしていきます。

29日の夜は、地域コーディネーター前川浩一さんの家(民宿)に泊めていただき、前川さんのいる集

落「大塩」は7割が移住者で、移住者向けの市営定住促進住宅が3軒並んでいました。8年住んでいると払い下げられる由。長野県では一番移住者の多い地区とのこと。

そんな中、HANAMAME株式会社が学校の中にでき、花豆アイスや花豆甘納豆などを地域と協働で開発し、地域が販売している。翌朝散歩をしていると畑の中にオレンジ色の花をたくさん咲かせている花豆のつるを沢山みることができました。標高900メートルの高い土地に適した植物のようです。

30日朝10時頃、美麻小中学校に着きました。

まず案内された所は、音楽教室で、3年生が楽器をやっています。近く学校の音楽祭があるので、それに向けた練習だそうです。

生徒10人ぐらいが、木琴や鉄琴を奏でていましたが、曲が終わると生徒の一人が言います。「微妙に違っている、もう一度やってみよう」。先生が答えます、「そうね、そうしよう。」これが、ここ美麻式なのだ納得。

次は9年生(中3のこと)の英語に行った。若い英語の担任のほか、ALT(アメリカ人の男性)がい

て、生徒たちと英語で会話しながら楽しそうにゲームをしていた。

この学年は今年の7月にアメリカ・カルフォルニア州メンドシーノに1週間行ってきた人たちだ。30年前から1年おきにこっちが行ったりあっちが来たりの交流が続き、こちらは、いつも5・6年が参加して来た。コロナで3年ほどできなかったのですが、今年7・8・9年生が行ってきたのだという。行ってくると生徒たちの生活がガラリと変わるそう。何事にも積極的主体的になるといふ。

次の7年生の理科は、見慣れた風景だった。定年間近と思われる男性の先生が一方的に黒板に書いていく。聞いていく生徒は3人だけ。クラスは5人しかないのに、二人が特別支援クラスなのだという。3人の生徒の一人は、黒板に向かって先生に向けて、手をあげることもなく質問を始めた。生徒も生徒である。

ここに登場しなかった学年は外のプールで体育の授業を受けていたようだ。

この学校は、9年間が3つのパートに分かれている。1〜4年、5〜7年、8・9年。それぞれ「ホップ期」「ステップ期」「ジャンプ期」

と名付けられている。

見学を終えてから、校長室に集まったとき、私が言った。「制服があるんですね。ビックリしました」とすると、校長が言う。「ジャンプの子どもだけ上着、スカートとズボンだけが決まっています。上は白っぽいもの。となつています。ステップの子どもたちは、標準服でスカートとズボンだけが決まっています。上は白っぽいもの、というのがありません」。制服の検査はありません。転校生や山村留学生など、違う学校から来た子どもは違う制服を着ている事もあるのだそうです。

地域とのつながりの中、学校で行われている企画の中には、HANAMAME工房株式会社、美麻ふるさとカルタ、大町銀嶺豚、などなど。それらすべてに、たくさん活動が ついてきます。これはCSコーディネーターの活躍によるものだと思います。

HANAMAME株式会社では、宣伝のためのポスターづくり、東京銀座にあるアンテナショップに売りに行くなど。

美麻ふるさとカルタでは、地域の方々との話し合いの中から、どんなものが地域の中にあるのかを知るようになります。

このかるた絵は、3人の上手な子が書いています。子どもが作ったとは思えない芸術家がかかわったに違いない、と思わせる「絵」なのです。地域にある人的資源も十分に活躍してもらっての総合的な学習です。

美麻市民科(いちみんか)という総合的な学習の時間があります。

これは総合的な学習として2010年より地域をフィールドに、美麻地域づくり会議と長野大学の協力で始めたものでした。初めは1年間ということと始めたのですが、その後いろいろと形を変えながら、現在は7・8・9年生の3年間は継続的探究的に学んでいます。子どもたちがテーマを決めて、探究的に取り組んでいるのです。そこから出てきたものとして、花豆製品や美麻カルタなどが存在するのでした。

今年校長として帰ってこられた中原校長先生の下、これからもっと子どもたちによる思いがけない活動が、地域を動かしていくような気がして、わくわくしてしまう美麻小中学校でした。



和田ヨリさん ご冥福をお祈り申し上げます



「お世話になりました」

姪 和田典子

ヨリ叔母が94歳でこの世を去ってから2か月余りが経ちました。

鈴懸さんに入入りしていた日々が遠い昔の出来ごとのような不思議な感覚がしております。

叔母は朝のテレビ体操を続けて居り、足の丈夫な人でしたが、5月の骨折を機に職員の皆様にご苦勞をお掛けするようになり、私は介護に携わる人の大変さを知る事となりました。

入院先の病院でも多くの方のお世話になりながら、決められた寿命を生き、母親より1年長い生涯を終えました。

職員の皆様はじめ、入居者の皆様、介護生活を支援してくださいました方々にお礼申し上げます。お世話になりました、有難うございます。



追悼

「和田ヨリさん」を偲んで

入居者 山岸トヨ

令和5年8月12日に亡くなられた「和田ヨリさん」のご冥福をお祈りし、私達2人の不思議な縁について少し書かせて頂きます。

彼女との出会いは昭和26年、70年以上も昔になります。

それは、新潟県保健婦専門学校の入学式でした。その後1年間過ごした寮も同じでした。

同じ南魚沼出身と言う事も有り、共通する話題も多く随分お世話になりました。

私たち、免許取得後は職場こそ

違いましたが、此の魚沼の地で保健婦として同じ目的を持って働き、人生の終末に「終ノ住み家」として選んだ所が、此の「鈴懸」。私は10年前入居、彼女は令和3年、お盆過ぎの頃私の隣室に入居されました。相談した訳でもないのに、何か2人の間の不思議な縁を感じずにはいられませんでした。

入居後は、新潟の寮での楽しかった青春時代の思い出話を、茶のみ話にと期待していたのですが、彼女が、彼女の難聴が意外と重度で其の思いは果たせずにお別れが来て

しまいました。

週3回のデイサービスも「楽しいよ」と、言って迎えの車を待つておられました。

こんな不思議な縁が有るからには、あの世でも又、会えるかもわかりません。其の時は思う存分青春の思い出話をしましょう。

それまで安らかに眠りください。

合掌



鈴懸俳句教室「仲秋」の特選句

たおやかに風にまかせて花芒
落栗を拾ふ頭にまた一つ

井上信吉

無花果の熟るるを待てば蜂が来る
老いし母手元確かに柿を剥く

山岸トヨ

満月やここにも一つにわたづみ
山間の新しき村豊の秋

関 勝美

理事長 黒岩秩子

11月1日(水)は夢草堂で、恒例の後山小学校の子ども演劇がありました。

後山小学校は特認校で、後山以外でも南魚沼市全域から通学することが可能です。特別支援学級の生徒さんが15人中4人いるということを知っていました。

タイトルは「おかしな贈物」。山の中に大きな固い箱があって、その正体を知りたい子どもたちが、色々と工夫をして、箱を壊

して中を見るといってお話です。

いろいろな子ども達の集団が、いろいろ「策」を講じて、とうとう中を開けることができます。それを祝って全員で踊ります。言葉を発することが難しい人は、セリフを書いたボール紙で発言します。歌が歌えない人は、ピアノカの演奏で参加します。不得意なことを無理してやるのではなく、回避して、参加します。よく工夫されていると思いました。

マイクを使わずに大きな声で、耳の悪いお年寄りにも聞こえる声でやってくれました。

途中観客席から、笑いが起こったり、拍手が起こったりするので、生徒さんたちは、学校で行った時よりも出来がよかったとの校長先生よりお話がありました。



桐鈴画廊

桐鈴会が運営する各施設をご利用いただいている皆様の活躍・活動をお知らせします。皆さんの新しい側面を再発見してみてください。



ケアハウス鈴懸入居者 岡村昭夫さんの作品です。人参・大根・なす・里芋で造りました。

編集後記

11月になり季節は一気に秋から冬へ変わっていきますね。さすがに朝晩が寒く暖房をつける日も出てきました。ハロウィンも終わり気持ちも街の雰囲気も年末の様相になって、なんだかソワソワあつという間にお正月になりそうですね。本当に1年が早いです。

今年は、インフルエンザが例年より早くから流行り出し猛威をふるってるそうです。体調管理に気をつけながら今年の冬も乗り切りたと思います。

(グループホーム

おひさま 関 真弓)

